

東温高校 野球部通信

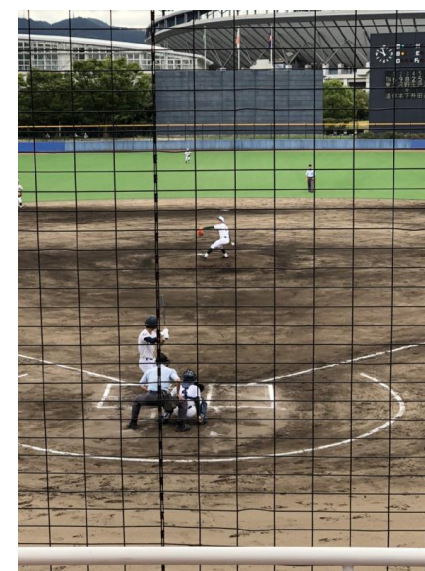
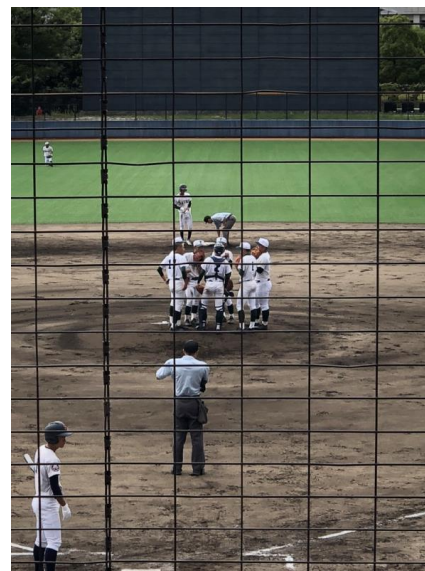
第2号
令和3年1月8日

☆ 秋季大会 応援ありがとうございました ☆

令和2年9月13日(日)に秋季四国地区高等学校野球大会中予地区予選が開幕しました。新型コロナウイルスの影響で開催が心配されたが、制限はあったものの大会をすることができてよかった。今大会が新チームとなって初めての公式戦であり、1回戦は昨年の新人戦で敗れた済美高校との組み合わせであった。昨年、敗戦を経験した2年生は、「今回は勝つ」という熱い気持ちを持って日頃の練習に励み、試合に臨んだが、1対5と悔しい結果となった。この試合で経験した悔しい気持ちを持って、今後の練習試合や冬のトレーニングに励んでいきます。新チームとなったばかりで、まだまだ未熟なところが多いですが、日頃から多くの御支援、御声援をくださる方々への感謝の気持ちを持ち、取り組んでいきます。今後とも本校野球部への温かい応援をよろしくお願いします。



いを目の当たりとした。この試合で感じた差を埋めるために、冬の練習では、「走・攻・守」の技術面や体力面だけでなく、厳しいトレーニングに積極的に取り組み、精神面も鍛えていきたい。(副部長：渡部元輝)



～ 秋季大会を終えて ～

《 投手 岩川慎之介 》

私は去年からずっと投げさせてもらって先輩たちを公式戦で1回も勝たせることができませんでした。とても悔しくて申し訳ない気持ちでいっぱいでした。だから、せめて公式戦で勝つ姿を見せたいと思いました。対戦相手が済美と決まったときは驚きましたが、去年の新人戦で負けた相手だったのでリベンジするつもりでやろうと思っていました。しかし、結果は負けてしまいました。また、自分のピッチングも少し悔いの残る内容でした。結局、公式戦で勝つことができませんでした。済美を抑えることができなかった自分のせいだと思います。だから、これからもっとたくさん練習して、春までに成長をして、春季大会で勝てるようにしていきたいと思います。



○ 令和2年度愛媛県高等学校秋季愛媛大会 中予地区

【1回戦】 令和2年9月13日(日) マドンナスタジアム 第1試合

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
東 温	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
済 美	0	0	2	0	0	1	2	0	×	5

東温：岩川、伊藤-玉井 ▽盗塁：玉井

初回到久保の出塁、2回到玉井の安打、3回には高氏の安打と毎回ランナーを出すも得点をする事ができなかった。守備では、岩川、玉井を中心に得点を許さず粘り強く守ったが、3回と6回にそれぞれ得点を許してしまった。反撃したい打線は、相手投手を攻めきることができず、試合中盤はランナーを出す事ができなかった。しかし、7回に先頭の野々下と玉井の連続安打で無死1・2塁のチャンスを作り、1死1・3塁となった後、相手の守備のミスにより得点することができた。なおも1死2・3塁の場面であったが、追加点を挙げる事ができなかった。その後も得点することができず、昨年に続いて悔しい結果となった。この試合から、全ての部分でレベルの違

《 二塁手 高氏絢登 》

秋季大会では、済美高校と対戦し、5-1で敗れ、多くの課題が見つかりました。特に課題として残ったことはバッティングです。安打数がわずか4本と少なく、チャンスの場面で打つことができず点を取ることができませんでした。これからの練習では打撃強化を目標にし、どんな投手でも打ち勝てるようにしたいです。もう一つの課題は、体を大きく、強くすることです。済美高校の選手と比べると体の大きさやパワーなどあまりにも大きな差がありました。一人一人が目標を立てて、この冬のトレーニングをしっかりと行い、強い体をつくっていきたいと思います。



《 中堅手 野々下英敏 》

済美高校と対戦してみて、多くの課題が見えました。一つ目は体の大きさの違いです。済美高校の選手は体が大きく、バッティングの時などのパワーに大きな差がありました。この冬に計画的なトレーニングを行い、チーム全体でレベルアップしていきたいと思います。二つ目は、繋ぎのバッティングでランナーをため、チャンスで打てなかったことです。誰がチャンスで回ってきても、打てる攻撃力をつけるため冬に時間をかけて、どんなチームにも負けない攻撃力をつけたいと思います。次の大会で1つでも多く勝てるように、オフシーズンの一日一日を大切に、チーム全員で成長していききたい。



《 左翼手 上田和輝 》

自分は新チームになっての初めての大きな大会で試合に出たのですが、思うような結果が残せず、全くチームの役に立つことができませんでした。チーム全員が一丸となって一生懸命に練習してきたのですが、自分はみんなの期待を裏切る結果で本当に情けなく悔しかったです。チームも敗戦に終わり、自分がもっとチャンスで打てていれば試合の結果は変わっていたかもしれないと思うと余計に悔しくなりました。春の大会までもっともっと練習を積んでいき、どんな相手にでも勝って、公式戦の勝利を目指したいです。そして、自分自身も打って、守って、走ってチームの力になれるよう自分にできることをしっかりと成し遂げていき、全力を尽くしていきたいです。



＜編集後記＞

【秋季大会を終えて】

コロナ禍の中、秋季大会が開催されたことに対しまして関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。また、日頃から私たちの活動に御理解と応援をいただき感謝申し上げます。

秋季大会では強豪済美高校と対戦いたしました。自分たちの特長をゲームの中で表現し、東温野球を皆様方に披露し、勝機をものにするという信念の元、試合に臨みましたが、相手の力に屈するという結果になりました。今後クリアすべき課題としては、以下のようなことが考えられます。

- ① 自分たちの現状での力を知り、どんなチームに対してもぶれずに戦える型を持ち、チームで戦うための力を醸成する。
- ② ミスを無くし、防ぐことのできる失点を与えないように技術・メンタルともに強化する。
- ③ 好投手に対応し、得点を挙げられる攻撃力をつける。

選手一人一人はこれらの課題を克服すれば、必ず勝利をつかみとれると信じて、じっくりと自分自身やチームメートと向き合ってほしいと願っています。

(監督 堀内準一)